

長谷川 望 牧師

*世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。(ヨハネ15:18~19) 主イエスは弟子たちを「友」と呼んで選び、福音を伝えるために任命した。遣わされたところは「世」である。弟子たちはイエスのものとなり、世のものではなくなっている。世は弟子たちと相入れないところであるから、世は彼らを憎むだろうと言われる。しかし、世が彼らを憎むということは先に主イエスを憎んでいるということなのだ。パウロがまだサウロと呼ばれてクリスチャンたちを迫害していた時、主イエスの声が聞こえ、「どうしてわたしを迫害するのか」と問われた。

* どうして世はイエスを憎むのか。一つは「世」はユダヤ人たちを表し、彼らがイエスに敵対しているという事実である。もしわたしがほかのだれも行ったことのないわざを、彼らの間で行わなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今や、彼らはそのわざを見て、そのうえでわたしとわたしの父を憎みました。(15:24) 彼らがイエスが大きなわざ、すなわち奇跡を見なければ彼らの罪は明らかにならなかつただろう、と言われる。イエスがメシヤであることを証明するわざを見たにもかかわらず、認めない。見ても信じない。罪が露わになり、イエスを憎み、彼らが信じている父なる神をも憎むことになるのである。

*世がイエスを憎むもう一つの理由。イエスが説かれた価値観は世のものとは全く異なるものであったからである。世の価値観の基は、結局自分の欲望から出ている。自分の利益、自分の喜び、自分の願い自分が正しい、という自己中心に生きる人たちがあふれている。自分の欲望を満たすために偶像の神を作り出す。対して主イエスは神であるから、価値観の基は完全なきよさ、正しさ、善などである。対立するのは当然である。

*このような世にキリストを伝えるべく出ていくとき、困難や、迫害が起こる。日本でも最初にキリスト教が伝わったとき以来、多くの宣教師やクリスチャンが迫害を受けてきた。私たちの教会の所属教団も1891年に横浜に15人の宣教師が到着し宣教を始めた当初、数々の困難に遭った。しかし、主の助けがあった。私たちも世と戦うときが来た時、必ず主が守り助けてくださることを信じよう。先の希望を見据えて。